

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フォーリーフはなみずき校		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		～ 2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	指先の訓練では、切る、貼る、ちぎるのテーマを意識し、季節や行事などを考慮した楽しめる内容の工作を取り入れています。 他に手足を協調的に動かす粗大運動遊びや、競争心や向上心を育む勝負ゲーム、協力の大切さ、共有経験の楽しさを知れるチーム戦など、子どもたちが主体的に楽しく遊べるレクリエーションを立案し実行しています。	指導員だけでなく、子どもたちも役割を持ってレクリエーションに参加することで、責任感や達成感を持ちながら楽しく友だちと遊ぶ経験を積み重ねていきます。
2	子どもの特性に応じた専門性のある支援が受けられている。	専門支援では作業療法士が、子どもの特性や保護者からの要望に合わせて、SSTやビジョントレーニング、感覚統合療法などを実施しています。 子どもたちの主体的な参加を促すため、「遊び」の中で支援が成り立つよう、子どもたちの興味関心も大切に取り組んでいます。	担当作業療法士が、常に新しい知識を持つための努力をしていくことで、支援の質の向上に役立てていきます。 発達障害領域の作業療法について、積極的に学んでいく所存です。
3	集団支援だからこそ、社会的行動スキルを身につけられる。	大人になってから、人と支え合って生きていく中で特に必要なソーシャルスキルを身につけられるよう支援しています。子どもたちは集団の中で「関係開始(挨拶、会話のきっかけ)」「解読(相手の表情から察する)」「主張性(はっきり自分の気持ちが言える)」「感情統制(自分の気持ちをコントロールする)」「関係維持(相手の立場を考えて行動する)」「記号化(豊かな表現力)」を自然に学んでいます。	活動プログラムは特に、主体性を持って参加してこそ子どもたちにとって貴重な経験となり得ます。私たちは子どもたちの興味関心を理解し、わくわくするようなプログラムの下準備に力を入れていくことで、支援の質の向上に貢献していきたいと思えます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活空間が心地よく過ごせる環境になっていない。	全体的に整理整頓、断捨離の意識が低い。	大掃除の機会を設け、使わないものは捨てる。 置く場所を決め、常に整理整頓を心掛ける。 指導員が徹底していくことで、子どもたちに胸を張って整理整頓を呼びかけられるようにしていく。
2	職員全員での支援の方向性を合わせる事ができていない。	発達障害への理解を一人一人がより深めていく。	発達障害に対する理解、関わり方の知識を全員が身につける(サポーターズスクール研修の受講)ことで、支援の方向性を統一していく。
3	リスク管理が徹底できていない。	ヒヤリハット、アクシデント報告書を作成しているが、見逃されている事案も多い。	今後、正社員だけでなくパート、アルバイトも報告書を作成する。また、ヒヤリハット、事故等発生時にはその場にいた職員同士が互いに呼びかけ合い発生したことを認識できる雰囲気作りをしていく。